

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第4号

キウイフルーツかいよう病の発生について(第II報)

平成27年4月8日付け技術情報で、本年でははじめてキウイフルーツかいよう病(Psa3系統)が発生した旨お知らせしたところですが、昨年発生を確認していない地域で、新たに発生を確認しました。

特に、5月頃までは病気が感染しやすい条件が続きますので、早期に病徴を発見し、防除対策の一層の徹底に努めましょう。

1 対象作物名：キウイフルーツ

2 病虫害名：かいよう病(Psa3系統)

3 発生状況

本年4月6日に発生を確認(平成27年4月8日付け技術情報第2号)した地域とは別の県南部地域でかいよう病の疑いの高い樹を確認し、病斑部分からDNAを抽出し、PCR検定をしたところ陽性であり、4月20日にかいよう病(Psa3系統)の発病を確認した。

4 病徴及び生態

別添の「キウイフルーツかいよう病」についてを参照

5 防除対策

- (1) ほ場をこまめに観察して樹液の漏出等(写真1、2)の病徴の早期発見に努め、発生が疑われる場合は、速やかに関係機関へ連絡する。
- (2) 器具や人への病原菌の付着による伝染を防ぐため、園地内の衛生管理を徹底する。
 - ① 器具の使いまわし等を行わない。ハサミやノコギリ等の器具は、次亜塩素酸ナトリウム水溶液(ハイター等)で消毒して使用する。
 - ② 園地に入出入りする際は手を70%アルコールで消毒し、靴底の泥を落とし、消毒する。
 - ③ 収穫かごやキャリアに植物残渣を混入させない。
 - ④ 園地から立ち去る前に、すべての服、帽子、靴についた植物残渣は除く。
 - ⑤ 発生園で作業した場合は、そのままの服装で他の園へは行かない。
- (3) 薬剤を定期的に散布することにより、感染を防止する。
 - ① 発芽後から叢生期(新梢長約10cm)までは、銅水和剤を中心に登録薬剤を定期的に散布する。
※ カスミンボルドー1,000倍、銅ペクチン水和剤1,000倍またはコサイド3000の2,000倍を散布する。(各薬剤散布時には薬害軽減のため炭酸カルシウム剤200倍を加用)

②叢生期から開花期までは、銅水和剤あるいは抗生物質剤を定期的に散布する。

なお、銅による葉害が出やすいため、薬剤の選定等に注意する。

※ コサイド3000の2,000倍を散布する。(葉害軽減のため炭酸カルシウム剤200倍を加用)

③4月下旬以降はアグリマイシン100の1,000倍(使用時期:落花期まで)、アグレプト水和剤1,000倍(使用時期:収穫90日前まで)、マイシン水和剤(使用時期:収穫90日前まで)またはカスミン液剤400倍(使用時期:収穫90日前まで)などを散布する。

④収穫後から発芽前までの休眠期

カスミンボルドー500倍、銅パーシク水和剤500倍、またはICボルドー66Dの50倍を定期的(約1か月間隔)に散布する。特に発生園周辺の園地においては定期的な薬剤散布に努める。

⑤抗生物質剤は残効が短いため、防除適期を外さないように注意し、また、耐性菌発生のリスクが高いため、同一系統の連用は避ける。



写真1 芽枯れ(上段:昨年4月下旬)
樹液の漏出(下段:昨年4月下旬)



写真2 葉の斑点と花蕾がく片の褐黒変
(昨年4月下旬)

「キウイフルーツかいよう病」について

○ 病徴

- 葉**
- ・ 4～5月ごろ、明瞭な淡黄色のハローを伴った不整形の褐色病斑を生じる。大きなハローを伴わない小さな病斑の場合もある。
 - ・ 夏季の高温下では葉の病勢は衰え、病斑は見にくくなる。

- 枝幹**
- ・ 樹液が流動する2月頃から、枝幹（芽の周囲、葉の脱落痕、負傷部、せん定痕など）から白濁した菌泥や赤褐色の樹液が流れ出す。血が流れ出たように見える。

- 花**
- ・ ガクが褐色～暗褐色に変色。ガクが侵されると花弁が淡褐色に変色。
- ⇔ 花腐れ細菌病の場合は花弁や雄しべも褐変する。



〔葉の病徴〕



〔花の病徴〕



〔枝幹の病徴〕

生態

病原体：バクテリア（細菌）

感染時期：・早春～初夏（3～5月）、秋～初冬（10～12月）
・増殖適温：10～20℃

伝染方法：・伝染源は罹病樹から流れ出す菌泥で、春や秋の強い風を伴った降雨により飛散する。葉や新梢から感染し、周囲の樹、園地へ拡大する。
・その他 樹体の接触による傷口感染
ハサミなどの器具の使い回し
罹病樹から採取した穂木の接ぎ木
罹病苗木の持ち込み
・土壌伝染はしない。

発生しやすい条件：・春と秋の風当たりが強い。
・寒気が停滞しやすい。
・秋の冷え込みが早く春が遅い。

考えられる被害：

- ・「レインボーレッド」や「ホート16A」などは本病の影響を受けやすく、数年で枯死することがある。
- ・「ハイワード」では、枯死しにくいですが、減収などの影響が出る。

○ 防除対策

- ・一度感染すると根本的な治療方法は無い。発病樹は伐採する。
- ・健全な苗木、穂木を使い、菌を侵入させない。
- ・ノコ、ハサミなどの作業器具の消毒
- ・生垣やネットによる防風対策
- ・薬剤防除は、抗生物質・銅剤などの登録はあるが、感染しないように予防的に使用する。

疑わしい症状を発見したら、

速やかにJA、普及指導センターへ連絡を！！